

# セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ向上における男性関与に向けた政策の検討

ーフィリピン、ルパン・パンガコ地区、カシグラハン地区を事例としてー

北川 そら\*

## 【要旨】

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）は、特に途上国において未だに深刻な課題である。SRHR に脆弱なグループであり、本研究において焦点を当てるのは思春期の若者と男性である。特に SRHR 向上とジェンダー平等達成には男性の関与が不可欠である。本研究では SRHR が健康政策の優先課題となっているフィリピンの、マニラ郊外に位置するルパン・パンガコ地区、カシグラハン地区を調査対象とし、その地域の SRHR 向上とジェンダー平等を目指した思春期の若者、特に男性の関与を重視した政策を検討した。対象地域での調査の結果、SRHR に関する知識、意識の低さ、男性の理解と協力の欠如、若者の性に対する社会的規範と実際の性的活動とのギャップが明らかとなり、本研究では、特に男性の関与を重視した、思春期の若者対象の包括的な性教育とピア・エデュケーションの実施が効果的であろうと結論づける。

キーワード：セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、フィリピン、ジェンダー、男性、思春期の若者、ピア・エデュケーション

## 1. はじめに

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）とは、性と生殖に関する身体的、精神的、社会的健康と、それを享受する権利を指す。SRHR を侵害する要因として、妊産婦死亡や望まない妊娠、HIV/AIDS を含む性感染症、ジェンダーに基づく性暴力などが挙げられ、それらは特に途上国で深刻である。このように女性の命と人権が脅かされている背景には、ジェンダー不平等の社会があるのである。

本研究において焦点を当てるのは思春期の若者と男性である。思春期の若者は、社会的規範により SRHR の情報やサービスにアクセスすることに特有の課題を抱えている。また多くの場合で女性よりも権力を持つ男性を、SRHR の向上に関与させることは不可欠であ

---

\* 関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程（fci99696@kwansei.ac.jp）

るが、依然として男性の関与がみられた事例は限られている。

よって本研究では、フィリピンのマニラ郊外に位置する貧困地域である、ルパン・パンガコ地区、カシグラハン地区の住民の SRHR に関する知識、意識、行動をアンケート調査により明らかにし、対象地域の SRHR 向上とジェンダー平等を目指した思春期の若者、特に男性の関与を重視した政策を検討することが目的である。

## 2. セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツと社会的規範

### 2.1 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツとジェンダー

ジェンダー不平等の社会では、家族の形成方法や性的行動を含むリプロダクションに関わる行動において、女性が自由に選択し、決定する能力がしばしば制限される。例えば、男性が女性よりも強い意思決定権を持つ社会では、女性が避妊を実行することを望んでいても、男性の意向が優先されてしまう。さらに、SRHR が阻害された女性は、あらゆる面において機会や能力が制限されることにより、社会のジェンダー不平等が一層強化されるといった悪循環が生み出されている。つまり、SRHR とジェンダーは相互に影響を及ぼしているのである。

### 2.2 2つの重要なグループ

本研究では途上国における SRHR 向上について検討するにあたり、2つのグループに焦点を当てている。それは、思春期の若者と男性である。それぞれのグループと焦点を当てた理由に関して以下に述べる。

#### 思春期の若者

人生において、ジェンダー社会化<sup>1</sup>の力が特に強いのは思春期の間である。同時に思春期は、SRHR サービスにアクセスすることに特有の課題を抱えている時期でもある。早期の性教育は性行動を早めるといった既成概念や、思春期の若者や未婚の人々に対する性行為を禁止するような社会的規範によって、思春期の若者は SRHR に関する情報やサービスにアクセスすることができず、彼らの妊娠や性感染症を予防する能力が制限されてしまう場合がある。さらに、この時期に SRHR が害されることによって、彼らの今後の人生が大きく変わってしまう可能性がある。

#### 男性

<sup>1</sup> ジェンダー社会化とは、「少年や少女が社会に浸透しているジェンダーバイアスがかかった行動を学ぶこと」（Neetu, Stoebe, Ritter, Edmeades & Balvin, 2017）と定義される。

男性は多くの場合、女性よりも権力や支配力を持っている。例えば、性行為のタイミングや頻度、家族計画の実行、パートナーの産前・出産のケアへのアクセスに関して男性が強い決定権を持つ場合がある。したがって、男性や少年がジェンダー平等を促進するような積極的な関与がなければ、ジェンダー平等と SRHR 向上の実現は不可能である。2014 年の Institute for Reproductive Health のレポートによると、女性だけの介入を対象としたケースよりも、男性と女性の両方を介入させたケースのほとんどが、避妊や妊娠に関してより効果が現れたことが明らかとなっている。

SRHR とジェンダー平等に関する男性の理解と関与を促進する上で重要なことは、社会で規定された「男性らしさ」に起因する男性特有の脆弱性に注目することだと私は考える。彼らはジェンダー規範が女性の健康や権利が脅かすことを認識するだけでなく、「男性らしさ」という規範に起因する男性特有の脆弱性を自覚することが重要である。しかし、未だに女性や少女のみに焦点が当てられた政策が多く、男性や少年を巻き込んだ事例は限られている。

### 3. 調査研究-フィリピン、ルパン・パンガコ地区、カシグラハン地区-

#### 3.1 調査対象地域の概要

フィリピンは人口約 1 億 90 万人で、国民の 80%以上がカトリック教を信仰している。急速な経済発展の一方で、深刻な SRHR の課題を抱えており、リプロダクティブ・ヘルスは国家健康政策の優先課題となっている。フィリピンの SRHR の主な課題としては、合計特殊出生率の高さと望まない妊娠、思春期の若者の妊娠、満たされていない家族計画のニーズ、HIV/AIDS などが挙げられる。またカトリック教の影響もあり、避妊実行率が低く、特に男性コンドームの使用率が低い (Philippine Statistics Authority, 2017)。2012 年に「責任ある育児とリプロダクティブ・ヘルス法（共和国法 10354）」が制定されるも、未だ有効な実施には至っていない。

調査対象地域は、マニラ郊外に位置する貧困地域である、ケソン市パヤタス・バランガイ内のルパン・パンガコ地区と、リサール州ロドリゲス町サンホセ・バランガイ内のカシグラハン地区である。両地域は、一時雇用者や失業者が多く、住民の大多数は国家貧困ライン以下で生活している。

#### 3.2 調査結果と考察

調査対象年齢は、18 歳以上の男女である。調査の実施に当たって、パヤタスとカシグラハンで主に活動する認定特定非営利活動法人ソルト・パヤタスに協力を依頼した。調査では、タガログ語に翻訳した質問票を配布し、字が読めない、補助が必要な者に対しては、ソルト・パヤタスの現地スタッフが面接形式で質問をおこなった。

アンケート調査の結果、SRHR に関して調査対象地域には 3 つの課題があると考察する

ことができた。まず 1 つは、SRHR に関する意識、知識の低さである。子どもの数の平均は 4.17 人で、75%の女性は現状の子どもの数で満足していた。しかし、現状の子どもの数で満足している女性のうち、38.5%の女性だけがいつも避妊を実行しており、17.9%もの女性が今まで一度も避妊を実行したことがなかった。以上の結果から、地域住民の多くは家庭の収入や自分の人生を見据えて家族計画を実行するという意識が低く、希望以上の人数の子どもを出産することに問題意識を抱いていないことが考察された。さらに避妊法の知識を問う質問で、膈外射精の正しい知識を持っている人は全体で 43.5%、リズム法の正しい知識を持っている人は全体で 13%のみであった。以上から避妊を含む SRHR に関して、住民の深刻な知識の欠如が推測された。

2 つ目の課題は、男性の理解と協力の欠如である。避妊実行経験がある女性のうち、男性コンドームを使用した経験のある女性は 16.3%であり、調査地域でも男性コンドームの実行率は低かった。最も使用する避妊方法として男性コンドームを挙げた女性はいなかった。また、全体の 50%程度の人が、女性、男性双方がパートナーにコンドームの使用を提案できないといった社会的規範や考え方があると回答した。さらに、女性回答者の 32.7%が夫やパートナーからの暴力を経験したことがあった。以上から、男性が避妊に対して積極的ではなく、SRHR への理解と協力が欠如していると考察される。さらに女性に対する暴力から、ジェンダー平等の度合いが高いとされるフィリピンにもジェンダー不平等な規範が存在しており、そのような規範は直接的、間接的に SRHR を侵害している可能性がある。

最後の課題は、若者の性に関する社会的規範と実際の性的活動とのギャップである。全体で 20-30%の人が貞操観念を持つ一方で、初めて性行為を経験した年齢が 19 歳以下の人 は 53.8%であり、結婚前に性行為を経験した人は 80.9%であった。このようなギャップによって、若者が SRHR の情報やサービスにアクセスすることに、何かしらの物理的、心理的障壁を生み出していると推察される。

## 4. 提案

### 4.1 包括的な性教育とピア・エデュケーション

分析の結果、対象地域の住民の SRHR に関する知識を向上させ、意識を変えることで、彼らの SRHR が害されることを予防できるのではないかと考察した。そこで本稿では、特に男性の関与を重視した、思春期の若者対象の包括的な性教育とピア・エデュケーションの実施を提案する。包括的な性教育によって、SRHR の正しい知識を普及させ、良好な社会的・性的関係を築こうとする意識を高める。ピア・エデュケーションでは、社会的規範やジェンダー規範への意識を変え、自身の将来を考慮した上で家族計画を実行するようになることを目指す。

そして本研究では、ピア・エデュケーションに男性を関与させることは非常に重要であると主張する。ピア・エデュケーションでは、一対一、もしくは一対少数数で、ピア・エ

デュケーターと安心して話すことができる環境が作り出せる。そして、ピア・エデュケーターが良き相談相手となることで、特に思春期の男性は話しづらいような性の悩みを打ち明けられ、「男性らしさ」に対して疑問を持つようになることを期待する。また、男性はセッションを通じてパートナーとのコミュニケーション方法を学び、カップルで家族計画について話し合えるようになることを目指す。さらにピア・エデュケーターが同世代の男性にとって「男性らしさ」を実践しないロールモデルとなることも、SRHR を尊重するような彼らの行動変容を効果的に促進すると考えている。

## 4.2 政策の実施体制

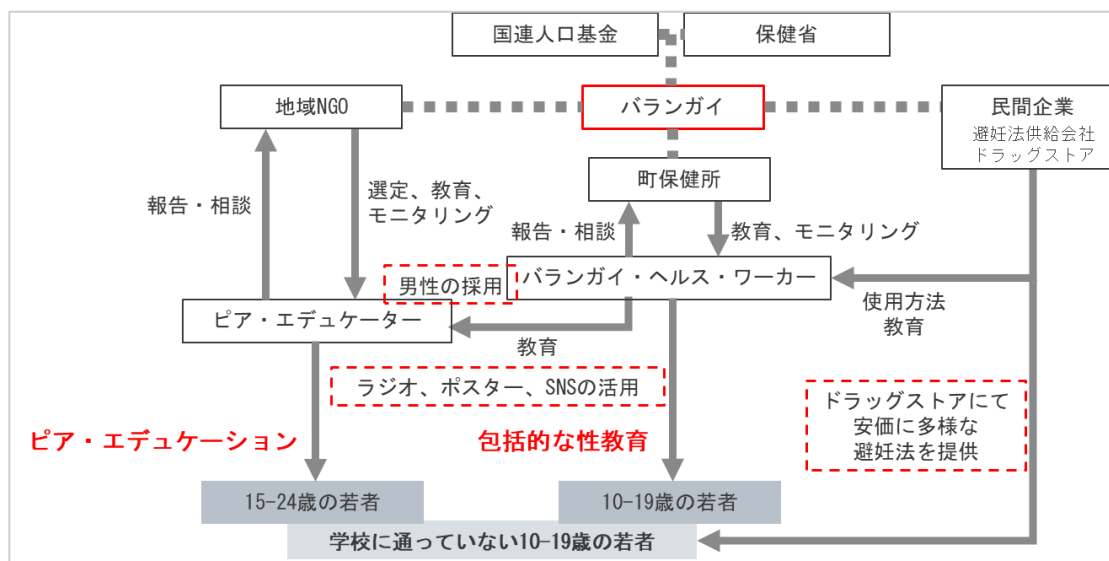
本稿で提案する政策の受益者は、ルパン・パンガコ地区とカシグラハン地区の学校に通っていない 10-24 歳の若者である。実施体制としては、国連人口基金（UNFPA）が全体の調整役となり、バランガイが中心となって、NGO、民間企業、町保健所と協力しながらコミュニティレベルで政策を実施する。

図 1 は実施体制を表したものである。まず国連人口基金と保健省は、各関係機関との援助調整や資金供与を役割とする。町保健所はバランガイ・ヘルス・ワーカーのトレーニングと彼らの活動のモニタリングを担う。地域 NGO は、ピア・エデュケーターの選定と、彼らの育成や彼らの活動のサポートを、バランガイ・ヘルス・ワーカーと共に実施していく。本提案では男性の関与を重視しているため、男性のバランガイ・ヘルス・ワーカーやピア・エデュケーターの採用に力を入れる。

そして、バランガイ・ヘルス・ワーカーは 10-19 歳の若者に対して包括的な性教育を、ピア・エデュケーターは 15-24 歳の若者に対してピア・エデュケーションを実施する。ピア・エデュケーションの対象年齢が包括的な性教育よりも高い理由は、性的活動が始まる年齢に焦点を当てるためである。

また本研究において、避妊法を提供している民間企業の投資は家族計画の選択肢の拡大とアクセスを拡大する上で重要であると考えている。よって、避妊法供給会社や地域のドラッグストアと協力し、地域のドラッグストアで、安価に多様な避妊法にアクセスできる状況を目指す。

図 1. 政策の実施体制の提案



### 4.3 男性関与の促進

以下では、先行研究と本調査研究を基に、男性関与の促進において配慮すべき点を4つ指摘する。まず1つ目は、バランガイリーダーが強いコミットメントを表明することである。バランガイの機能は行政、立法、司法の領域にまたがっており、バランガイリーダーには大きな権力が集中している（長坂, 1998）。さらに、フィリピンには「パトロン・クライアント関係<sup>2</sup>」が未だに広く浸透しており、バランガイリーダーの影響力は非常に大きい。そのため、バランガイリーダーが政策の重要性を訴え、参加を呼びかけることは、男性を含む思春期の若者の関与を大きく促進すると期待している。例えば、プログラムに参加し続けた人にはバランガイリーダーから表彰されるなどの取り組みも有効であろう。

2つ目は、居心地のよい環境を提供し、参加し続けやすい場所で開催することである。先行研究によると、男性がSRHRに関与しようとししない主な理由は、文化や個人的な問題ではなく、彼らの活動を促進し、可能にする環境が欠如しているためであると結論づけられている（MacDonald, Jones, Thomas, Thi Thu, FitzGerald & Efroymsen, 2013）。よって、男性がジェンダー規範にとらわれず、安心して自分の悩みや弱さを話せるような、居心地の良い場所の提供が必須である。さらに、男性が参加するのに不便な場所で開催するのは避け、ゴミ収集場やジープニー乗り場など、男性の職場やその近くで開催することが望ましい。

3つ目は、地域の薬局やドラッグストアに関与させることである。地域の町保健所にてピルは無料で入手可能であるが、コンドームはなかった。また、2017年のWHOのレポートによると、思春期の若者や男性は社会的規範により町保健所で避妊法を入手することに

<sup>2</sup> 「監督・庇護する資源を豊富に持つ者（パトロン）とそうでない庶民（クライアント）の間で形成される双務的、互酬的な関係のこと。フィリピンの場合、長い植民地統治の歴史の中で強力な在地の地主エリートによる農民の庇護支配が大きな特徴である。」（増原、鈴木、片岡、宮脇、古屋, 2018）とされている。

心的ハードルを感じやすいとされている。そのため、地域の薬局やドラッグストアで、安価に多様な避妊法にアクセスできるようにすることは、男性コンドームの使用率の上昇に貢献するであろう。

4 つ目は、マスメディアや SNS を活用することである。マスメディアによるキャンペーンは、単に情報を与えるだけでなく、特定の問題について他人と話し、特定の行動を取ることを促進するとされている (Gray, Christine, Marcos, 2007)。よって、ラジオやポスター、若者が頻繁に使用する SNS などを活用して、参加の呼びかけや正確な SRHR の情報の提供、HIV のテストや避妊法の入手先など SRHR のサービスへのアクセス方法に関する情報を提供することは有効であると考ええる。

## 5. おわりに

本研究では、アンケート調査をよってフィリピンのマニラ郊外の貧困地域における SRHR の状況、課題を明らかにし、SRHR 向上とジェンダー平等を目指した思春期の若者、特に男性関与を重視する政策を検討することを目的とした。アンケート調査により、対象地域では SRHR に関する知識と意識の欠如、男性の理解と協力の欠如、そして若者の性に対する社会的規範と実際の性的活動とのギャップなどの課題が明らかとなった。そこで本研究では、男性の関与を重視した、思春期の若者対象の包括的な性教育とピア・エデュケーションを提案した。

もちろん、短期的に人々の知識と意識が向上し、家族計画の実行率が大幅に上昇することは不可能である。しかし、セクシュアル・リプロダクティブ・ライツを個人の権利として宗教とは分けて認識している人も多く、フィリピン政府もこの分野に問題意識を持っている。よって、思春期の若者に向けて長期的に教育を行っていることで、緩やかではあるが、フィリピン社会に変化をもたらすことができるのではないだろうか。

さらにアンケート調査から、男性も性に関してより学びたいと考えている、既に夫婦間で性に関する問題を相談するカップルも存在することが明らかとなり、そこから男性関与の可能性を見出すことができた。そこで、特に思春期の男性へのピア・エデュケーションに力を入れることで、彼らは「男性らしさ」に縛られない自由で、相手を尊重しあう生き方ができるようになり、それは調査対象地域の SRHR の向上とジェンダー平等の達成に大きく貢献できると考える。

今回の調査では、HIV/AIDS の現状やバランガイの運営状況が十分に明らかにできず、男性からは女性の 4 分の 1 以下の回答数しか得られなかった。また本研究において、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツへの男性の関与の事例が限られている要因や、男性のピア・エデュケーションを実施する上での課題に関してさらなる検討が必要である。これらは今後の課題としたい。

【参考文献】(引用文のみ。その他の参考文献については修士論文を参照されたい。)

〈英語〉

- Gray Barker, Christine Ricardo, Marcos Nascimento. (2007). Engaging men and boys in changing gender-based inequity in health: Evidence from programme interventions. WHO and Promundo.
- Institute for Reproductive Health. (2014). Male Engagement in Family Planning: Reducing Unmet Need for Family Planning by Addressing Gender Norms. Georgetown University.
- Lisa MacDonald, Lori Jones, Phaeba Thomas, Le Thi Thu, Sian FitzGerald & Debra Efroymson. (2013). Promoting male involvement in family planning in Vietnam and India: HealthBridge experience. *Gender & Development*, 21(1), pp.31-45.
- Neetu A. John, Kirsten Stoebenau, Samantha Ritter, Jeffrey Edmeades and Nikola Balvin. (2017). Gender Socialization during Adolescence in Low- and Middle-Income Countries: Conceptualization, influences and outcomes. UNICEF.
- Philippine Statistics Authority. (2017). National Demographic and Health Survey.
- WHO. (2017). Partnering with the private sector to strengthen provision of contraception.

〈日本語〉

- 長坂格 (1998). 『フィリピンにおけるバランガイの形成：フィリピン地域社会研究の一視点』．社会学雑誌, 15, pp.88-106.
- 増原綾子, 鈴木絢女, 片岡樹, 宮脇聡史, 古屋博子 (2018). 「第3章ウェブコラム「パトロン・クライアント関係」」．『はじめての東南アジア政治』．株式会社有斐閣.
- [http://www.yuhikaku.co.jp/static\\_files/studia\\_ws/data/isbn\\_9784641150584/15058\\_ch03\\_websupplement.pdf](http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/studia_ws/data/isbn_9784641150584/15058_ch03_websupplement.pdf) (2020 年 1 月 10 日アクセス).